天真寺門信徒会だより

2007
H19
1月
Vol.358

●今月の法語カレンダー●

仏の光にあうと
煩悩のさわりをはなれ
身も心も和らぐ

今月は『仏説無量寿経』のことばで、阿弥陀さまが立てられた48願の中第33番目の願いです。**わたしが仏になるとき、すべての数限りない仏がたの世界のものたちが、わたしの光明に照らされて、それを身に受けたなら身も心も和らいで、そのようすは天人や人々に超えすぐれるでしょう。**身も心も和らぐのは、本当に安心できるから。私には私のいのちまるごとをそのまま受け入れて下さる仏さまがいて下さる。これほどの安心はありません。仏さまの願いは私目当ての願いであります。

1月の行事

- **朝の日曜礼拝**（らいはい）
  毎週日曜朝7時
- **元旦会**
  1日（月）午後2時
- **仏教講座会**
  20日（土）午後1時半
  若住職がご法話致します。
- **写経会**
  20日（土）午前11時
- **納骨堂合同参拝**
  6日（土）午前10時
- **婦人の集い**　新年会
  10日（水）午前11時
- **雅楽教室**
  21日（日）午後3時
- **お経サークル**
  27日（土）午後3時
- **ヨーガ教室**
  17／31（水）午後1時

2月の行事

○仏教講座会　20日（火）
○納骨堂合同参拝　3日（土）

活動報告

★12月の「仏教講座会」では、皆勤賞・精勤賞の授与式、門信徒会の忘年会が行われました。

皆さん熱心にお参り下さり、大変ありがたいことです。本年度もぜひ多くの方に、仏さまのお話を聴くご縁に遇っていただきたく願っております。

■皆勤賞（計8名）
石川千代子・河野悦子

○婦人の集い　8日（木）
○写経会　20日（火）
○お経サークル　24日（土）
○雅楽教室　18日（日）
○ヨーガ　14／28日（水）

納骨堂合同参拝

1月6日（土）
午前10時より
法要です。
どうぞお参り下さい。

木内元恵・鈴木いとゑ・対馬千代・松井悦子・安井誠子・山口玲子

■精勤賞（計9名）
上村三代子・大枝義一・笠井啓作・河野武俊・清水澄子・対馬隆三郎・冨永みつる・長岡光子・山崎静子
（敬称略・50音順）

★8日は、築地本願寺「成道会布教大会」に参拝し、お聴聞させていただきました。東京青年僧侶会による毎年恒例のチャリティーバザーも楽しみました。

★本堂の募金箱の集計を致しました。
「幼い難民を救う会」
10円募金　計6233円
「アーユス」　計947円
ご協力どうもありがとうございました。後日寄付をさせていただきます。

初参りは家族でお寺へ

元旦会のご案内

1月1日（月）午後2時より

昨年一年はどんな年でしたか。
おそらく、うれしいこと楽しいことばかりではなかったことでしょう。
私共はつらくとも、悲しみ苦しみを経験しなければならないことがあります。
仏さまに手を合わせることは、お願いすることやすがることではありません。
悲しみをご縁とし、苦しみを乗り越える道を聴かせていただくのです。
一年の始まりにあたり、
今、支えられ生かされいることへの感謝の思いでお参り致しましょう。
皆さまのご参拝をお待ちしております。

「お寺スクール」ご案内

天真寺の「お寺スクール」は、写経・お経・雅楽・ヨーガと現在4クラスあります。皆さんで和気あいあいと楽しく練習しておりますので、興味のある方はぜひご参加下さい。新しい年から何か始めてみませんか。
日程は変更もありますので、随時ご確認下さい。

写経会

1月から『讃仏偈・重誓偈』の写経が始まります。終了すると「手作り経本」が出来上がります。
（世話人　三坂芳一郎さん）

毎月20日
午前11時～12時半
（開催月1、2、4、6、7、10、12月）

お経サークル

現在『正信念仏偈』の「和讃」を練習中です。一緒にお参り致しましょう。
（世話人　笹木昌幸さん）

毎月第4土曜日
午後3時～5時

雅楽教室

まだスタートしたばかりです。日本の伝統文化、今注目の「雅楽」を始めてみませんか。
（指導　弘山光称さん）

毎月第3日曜日
午後3時～6時

ヨーガ教室

ヨーガは、元々インドで始まった宗教的実践方法です。健康法として、無理なく続けていただけます。
（指導　大枝智恵子さん）

毎月第2・4水曜日
午後1時～3時

新年のご挨拶

本年も
どうぞよろしく
お願い致します

【門信徒会会長　大枝義一】

天真寺のご門徒の皆様、輝かしい新年を迎えられて御目出度う御座います。

大谷ご門主様は新春対談を拝読しますと、仏教の教えでは「笑顔笑顔」で対応するのが基本であると示されました。

毎月の仏教講座会、その他で御同朋の皆様とお目にかかります。笑顔と愛語で今年一年を楽しく過ごしたく念願しています。

【住職　西原恵照】

光壽無量　新年明けましておめでとうございます。

来る平２４年１月１６日は、宗祖親鸞聖人の七五〇回忌にあたります。天真寺では、この度の御遠忌を機縁として、記念事業を推進中であります。

「新たな始まり」
―明日の天真寺の基盤づくり―
一，境内地の拡張（駐車場）
二，天真寺墓地計画（大町）

次代を担う子や孫へ、我が家のお寺、私のお寺として引き継いでいくための大切な基盤づくりと考えております。

今年も皆さまのご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

合掌

【若住職　西原龍哉】

元日や　今日のいのちに
**　遇う不思議**（木村無相）

つい忘れてしまうありがとうという気持ち。改めて、「こんにち ただいま」を楽しみながら皆さまと共に歩んでいきたいと思います。

【坊守　西原悦子】

ただ念仏に聞き、ただ念仏申す生活を、報恩感謝の気持ちで今年も精進したいと思います。南無阿弥陀仏

【前坊守　西原敏子】

多くの人々やものの法縁によって支えられ、生かされている事を思い、今年も精一杯感謝の思いで暮らして生きたいと思って居ります。

【衆徒　山口武典】

「み仏の恵みを喜び　互いに敬い助け合い社会のために尽くします」

新年明けましておめでとうございます。

今年は浄土真宗の生活信条のこのお言葉をいただいて、精進したいと念じています。本年もどうぞよろしくお願いします。

【衆徒　西原静香】

みほとけの　光あふれて
いのちまいにち　新しい

一日一日をこんな気持ちで過ごせたらと思います。

今年も、皆さんと一緒にお法りに遇うご縁を多く持ちたいと願っております。また一年、お導き下さいます様お願い致します。

2007年（H19年）年回表

ご法事は、亡くなった方の命日に勤めるものです。日頃忘れかけている生命のつながりの深さを想い、仏縁に遇うというのが法事を勤める本来の意味です。

地域や他宗派によっては２３回忌や２７回忌、３７回忌をお勤めすることもあります。

１周忌（H18）2006
３回忌（H17）2005
７回忌（H13）2001
１３回忌（H7）1995
１７回忌（H3）1991
２５回忌（S58）1983
３３回忌（S50）1975
５０回忌（S33）1958
１００回忌（M41）1908

※ご法事の日時は、早めにお寺にご相談下さい。

京都つれづれ

京都鳴滝・了徳寺の報恩講「大根焚き」（１２月９～１０日）に先日行きました。

小さなお寺で庭に大きなおくどが幾つかあり、鉄の大鍋に湯気が上がっている。おとこし達は勇ましく薪をどんどん燃やし、赤い顔をして鍋をかき回している。おなごしの担当は、大根洗い、切り手、盛りつけ係、お運びするのは若い女性方と、大わらわでした。

７５０年前親鸞様が布教においでになり、村人が大根煮を差し上げた事をよろこばれて、庭のすすきの穂をもって帰命尽十方無碍光如来（すすきの名号）を残された事に由来と云うことです。

その当時親鸞様がこの地へ山坂を超え雪の積もった草木を分け入って入られる様子が想像できます。貧しい村人の精一杯のもてなしの大根煮であった事も思われ、感動します。

昔ながらの塩だけの大根煮も、今は厚揚げが入っていました。

３５００本の大根、１万人の参詣人と云いますが、お念仏の声は聞こえません。

俳句の季語になっている大根焚の縁を、今は人寄せにしている様にも思えましたが…ま、そんなにねじくれた気分になってはいかん。私もその一人、見物人。

今もこうして相続に関わっておられる大勢の方々に感謝。冷えた体の胃の部分があつい大根でほっこりしているのでした。

あつあつと　婆が涙や
　大根焚（岸田稚魚）

（京都より　高山美智子）

命

先日ご法事の席で、ご門徒の中村安男さん（河原塚）のお孫さん藤原茉優ちゃん（小４）が作って見せてくれた詩を紹介します。

昨年の世相をあらわす漢字は「命」でした。

生まれた命
絶たれた命
奪われた命
膨らむ命の不安

改めて命の意味や大切さを考えるご縁としたいものです。

命

死んだ命は二度ともどらない。
みんなが泣いても、もどってはこない。
でも、その人の思い出が残っているのだから、その人をえがおで見おくってくれれば、その人は心配しなずに、やすらぎのあるすがすがしいゆりかごのような温かい母のような手のぬくもりのある所に行けるだろう。
そのかわりにみんなの心の中にまた一つの命が必ず生まれるから…。

反響呼び再放送

天真寺秋彼岸会講師・松林宗恵師が「ラジオ深夜便」（ＮＨＫ第一）に出演し、「僧侶・海軍士官・映画監督を生きて」と題してご自身のこれまでの歩みを語られました。その番組が大きな反響を呼び、再放送が決定しました。

１２月２７日・２８日午前４時台で放送される予定です。ぜひお聞き下さい。

１２月３１日（日）大晦日の午前７時から「朝の日曜礼拝」が勤まります。一年の最後、皆さんとお参り致しましょう。